

◇◇◇「アンケート」について◇◇◇

前号に同封致しましたアンケートの回答が、ほぼ集つてきておりますので、途中です。が紹介させていただきます(七月四日現在)。才一の本年度大会課題、委員会提案の「農政と農民の組織化」につきましては「適当」とするもの一〇通にたいし、「やや問題あり」が三通、「不適当」皆無で、会員の御意見は、ほぼ賛成にかたむいておられるといつてよいかと思われまふ。「適当」の理由としては、問題の扱がりにむしる満足される方が多く、「いずれの専門分野からもアプローチできる適当な課題」(内藤莞爾) 敬称ははぶかせていただきます。以下同じ)、「農業の共同化よ

りは、それを生み出す条件をひらく問題とすることかできるという意味で；賛成」(菅野正)「時代に即応した題」(飯塚博之)などの賛成論があります。それはかりでなく、むしろ積極的に、「農民の組織化を、新しい組織の形成の現象に限定せず、旧来の組織の適応乃至変容を含めて、もしくはそれとの関連で扱えるより」(中島龍太郎)という御希望もあります。

その反面、「適当」とされながらも、焦点を共同化にすえて考えておられる方もあり、一現体制下の共同化が、農業発展をどこまですすめ得るか。；日本農業における共同化の将来への可能性を出来るだけ探つていただきたいと思ひます」(吉沢四郎)と述べられその意味では、「やや問題あり」の御意見に接近しているわけです。といひますのは、「やや問題あり」三通のうち二通までは、「生産的組織としての共同化集団を中心として取上げ、その組織化過程と機能を、既存の部落的秩序と農政との対応において把握、農民の日常的具体的利害を視角として分析するといつた組織論的なものが望ましい」(斎藤吉雄)、「当初の問題意識(現段階での農民の対応)から大分ズレた印象を受けるので、矢張り、現在の共同化に集約する形で運営を希望します」(鈴木広)という、つまり現時点の「共同化」に集中させよという御意見だからです。ところで今一通は、「農民の組織化という概念がバクセンとしすぎているように思う。たとえばこれを農協の問題にしぼり、「農政と

農協」とでもすれば、いつと明確になる」(大内力)という御意見です。いずれにしても、論議の焦点は、現在の農政に対応した農民の組織化、とくに共同化と農協にしぼられてくるのではないのでしょうか。

才二に、これまで毎回問題になつていました自由課題による発表を設けるか否かにつきましては、「必要なし」九、「必要あり」四で前者に傾きがちで、とくに「共通課題を相対的に解釈すると、自由課題の大部分は、この共通課題的視角から統一されると思う」(菅野正)、「例年からすると自由課題はアクセサリーの印象あり、そのくらいなら切つてはどうかと思うのです。とりわけ今年のように、大問題が課題とされると、余計そういふ気持がします」(内藤莞爾)という御意見もあります。しかも「必要あり」とされた方々も御自身で発表される予定は今のところなさそうですので、委員会の決定のごとく、本年は、共通課題で公募することとし、自由課題は切ることがよさそうに思ひます。

その他に、大会に關し御意見もいろいろとありますが、今回は紙数もありませんので、次号にでも御紹介することにいたします。(M)